

# 東北準備室が発足



【仙台支社】国際リニアコライダー（ILC）の誘致を目指す東北ILC推進協議会は14日、仙台市内のホテルで2016年度総会を開き、受け入れ体制を具体的に検討する東北ILC準備室を設置した。室長に県立大の鈴木厚人学長が就任。北上山地（北上高地）が建設地に決定したときに備えて関係機関の足並みをそろえ、研究所建設や地元企業の参入支援などへ速やかに動きだせる仕組みをつくる。

【関連記事4面】  
準備室は地域産業支援、地域受け入れ体制、広報、技術的検討の4部会で構成。岩手、宮城両県の行政、大学、経済団体など9機関が参加し、各部会の検討内

## 推進協 室長に鈴木県立大学長



東北ILC準備室を設置し、受け入れ協議の推進を確認した出席者=14日、仙台市

容を共有してそれぞれの事業を一体的に推進する。政府の誘致判断が見込まれる17、18年ごろまでに、ILCを受け入れるための地域広域基本計画の策定、

地元企業の加速器関連産業への参入支援、国内外への情報発信などを進める。

これまでの誘致活動は、講演会や政府要望、北上山地の現地調査などが中心だった。準備室の設置で、東北全体での本格的な受け入れ協議に移行する。

総会では、シンポジウムなどの機運醸成対策、情報発信の強化を盛り込んだ16年度事業計画を決めた。盛岡、一関、奥州、気仙沼の4市長を参与として委嘱し、機関決定に地元自治体の意見を反映させる。

国に対して▽国内誘致の可否検討のプロセス・条件の明示▽ILCによる成長戦略の検討▽建設費削減に向けた技術開発などを要望する決議を採択した。